

宇和島市	九七	二二、四七	一	一	三	五、八三	一	一	五、八三
八幡濱市	六二	二七	一	一	一	一	一	一	一
新居濱市	一〇七	二七	一	一	一	一	一	一	一
計	六、七〇三、三三二	五、八三、三九	一	一	一	一	一	一	一
昭和十一年	六、三三三、八二二	五、三三、三九	一	一	一	一	一	一	一
昭和十年	一五、〇九二、四三三	四、九七、九七	一	一	一	一	一	一	一
昭和九年	一八、三八〇、五三三	六、四六、四六	一	一	一	一	一	一	一
昭和八年	一七、九三二、一〇七	五、五、六、六	一	一	一	一	一	一	一

第五節 傳染病院、隔離病舎及隔離所

傳染病院

昭和十二年末現在の傳染病院は何れも市設にして松山市及今治市に各一院あり、之が收容定員は松山市六十一人今治市六十七人、合計百二十八人なり。

隔離病舎

昭和十二年末現在の隔離病舎は市設十、町村設三百十二、町村組合設十五、合計三百三十七あり。之が收容定員は三千百九十六人なり。之を前年の病舎數三百五十七に比し二十舎を減ぜるは不朽病舎廢止の結果なり。

隔離所

隔離所は今治市に一箇所を有し收容定員は十六人にして増減なし。

傳染病院、隔離病舎及隔離所

昭和十二年

市	町	村	組合	計	隔離所
溫泉郡					
越智郡					
周桑郡					
新居郡					
宇摩郡					
上浮穴郡					
伊豫郡					
喜多郡					
西宇和郡					
東宇和郡					
北宇和郡					
南宇和郡					
松山市					
今治市					

昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	計	新居濱市	八幡濱市	宇和島市
二	二	二	二	二			
二七	三	三	三	二八			
一〇	八	八	二	二〇	三	五	二
二三〇	二九	五	四五	二二	六	二	五
三三	三八	四七	三七	三三			
二七四五	二八五五	三、四〇〇	三、〇八三	二			
一五	一六	一六	一六	一五			
三三	三六	三三	二〇八	三三			
三七	三六	三六	三七	三七	三	五	二
三、二九六	三、二〇〇	三、二〇〇	三、三六六	三、二九六	六	二	五

第十二章 藥事

第一節 藥劑師及藥局

昭和十二年末現在の藥劑師總數は一七七人（男一三九、女三八）にして前年の一六三人に比し一四人を増したり。之を資格收得の區別より見るに大學卒業男二人、官公私立藥學專門學校卒業一一〇人（男八三、女二七）試験及第六五人（男五四、女一一）にして、同上中藥劑師の業務に従事するものは市部六八人、町部三二人、村部一三人、病院其の他の診療所に於て調劑に従事するもの二七人、賣藥營業のみに従事するもの四人なり。

同年末現在の薬局數は九一にして前年に比し一局を増したり。

藥劑師及藥局數

昭和十二年末現在

[illegible]

最近五ヶ年比較藥種商及製藥業者數は左表の如くにして、昭和十二年末現在の藥種商數は四二五、製藥業者數一〇六なり。

藥 業 者 數	（自昭和八年 至昭和十二年五ヶ年比較）
製藥業者數	一〇六
藥種商數	四二五

昭和八年 九月			藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セズンテ藥品販賣ノミラ營ムモノ	
	三	二	藥劑師 使用	藥 種 商
	一八	二〇	藥律第三章藥律附則 七條ノ四ニ 依ルモノ 當者	
	一	一	第二項該	
	三	三	其ノ他	
	三七	四五	計	製 藥 業 者
	六	九〇	藥劑師	
	四	四	藥劑師 使用	
	一五	一五	其ノ他	
	一〇五	一〇九	計	

昭和十二年中に施行したる藥品巡視成績は巡視を要する箇所數、一、四五一箇所に対し巡視を爲したる箇所數一〇九箇所なり、右の内不良藥品發見箇所數は二二箇所にして不良藥品發見個數は三三六個なり。

種別	巡視所數		不良藥品發見		規則違反處罰數
	巡視所數	巡視シタ	箇所數	個數	
藥劑師 藥局ヲ開 設スル者 其ノ他	九一	四八	一〇	一九六	
藥劑師ニ非ザル者 ノ開設スル藥局	三				
藥種商	四二二	五〇	一〇	一三八	
製藥者	一九	一	一	一	
病院	三九	二			
醫師	五六七	七	一	一	

齒科醫師	二六一						
獸醫師	四九	一					
計	一、四五一	一〇九	三三	三三六			
昭和十一年	一、四六九	一六一	一七	三四			
〃	一、四三一	八五	三三	四七			
〃	一、四〇五	一二九	二六	五一			
〃	一、四六四	二二九	三〇	九一			

第四節 賣藥

昭和十二年末現在の賣藥製造營業者數は四〇九人（藥劑師八九、醫師及獸醫師六二、藥劑師を使用するもの一三、賣藥法第二十四條に依る營業者一三四、同第二十五條に依る營業者一一）にして前年に比し八人を減ぜり。

賣藥請賣營業者數は二、七五四人にして前年に比し一、七九〇人を減じたるは營業者の整理を行ひたると同時に規則の改正に伴ひ新規營業に對する制限を加へたる結果なり。

賣藥行商者數は三八一人にして行商者の使用する賣子數二三一人あり。同年中の製造免許方數は二、七六二方にして之が製造價額は五十一萬七千二百十一圓に達せり。

賣藥業者數

昭和八年 九年 十年 十一年 十二年	製造營業者數		賣藥請賣		製造免	製 造	
	藥劑師 獸醫師 醫師及 藥劑師 使用スル モノ 業者	計	營業者 業者	賣藥行 商者數			
七	五	一〇	一六	八五	七、三九八	二、一九五	五、四〇六
七	五	九	一五	九六	七、二七七	二、三八三	五、四〇〇
六	五	一三	一七	一〇一	七、三五一	二、五〇六	五、四七、一〇〇
六	六	一三	一五	一〇六	四、五四四	二、七三三	四九、七三三
九	三	一三	二四	一二	二、七五四	二、七三三	五七、三二二

備考 「賣藥行商者數」欄中※印ヲ附シタルハ行商者ノ使用スル賣子數ヲ示ス

第五節 賣藥檢查

昭和十二年中に施行したる賣藥検査成績は検査を要すべき箇所數三、一六三ヶ所に對し検査を行ひたる箇所數一一三ヶ所にして違反發見件數一二件の内處罰を受けたるもの一件なり。

尙最近五ヶ年間の成績を比較すれば左表の如し。

賣藥檢查成績

昭和八年	検査スベキ箇所数	検査シタル箇所数	違反發見件数	處罰数
七、七九三		八六	一七	

	九年	十年	十一年	十二年
〃	七、六七八	七、七五五	四、九六一	三、一六三
〃	八五	五六	一三六	一一三
〃	二	一〇	二	二
〃	一	一	一	一

第六節 毒物劇物營業者

昭和十二年末現在に於ける毒物劇物營業者數は五百九十一名にして前年の五百八十九名に比し二名を増したり、毒物劇物製造營業者は四名にして前年に比し一名を減じたり。

毒物劇物營業者數

昭和八年	九年	十年	十一年	十二年
八七	九三	八四	九二	八六
二九八	三一八	三三一	二九二	三〇三
二四	二八	二八	二〇五	二〇二
四〇九	四三九	四三三	五八九	五九一
四	五	五	五	四
全上中	製造營業者	計	其ノ他	藥種商
藥劑師	藥劑師	藥劑師	藥劑師	藥劑師

第七節 藥用阿片受拂狀況

最近五ヶ年間藥用阿片受拂表

年次	區別	受入高	拂下高	殘高	摘要
昭和八年度	五瓦入	二二七	二二七	一九〇	四七
〃 九年度	全	四七	二六七	一八〇	七七 保管轉換五七
〃 十年度	全	七七	二〇〇	一四〇	一三七
〃 十一年度	全	一三七	一三七	一〇	一二七
〃 十二年度	全	二二七	一三七	六〇	六七

第八節 藥用植物

本縣に於ける藥用植物は除蟲菊の栽培を主とし、主産地は温泉郡、越智郡の島嶼部地方なり。

藥用植物收穫狀況

昭和十二年

藥品別	昭和十二年產額	栽培ノ區別	栽培面積	同上反當收穫量	主タル生産地方
除蟲菊	一、一七〇、四八五 _延	栽培	一、七七〇、〇〇 _町	六延強	越智郡
五倍子	一九、七六〇	栽培	一	一	喜多郡
サフラン	一四	栽培	〇、二三	〇、六延強	宇摩郡
重藥	八三四	野生	一八七	一	伊豫郡

第九節 麻藥慢性中毒患者調

署名	別性	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
松山	女男	一六四	六二	一	三
三津	女男	一	一	一	三二
今治	女男	二〇	三五	一	一一
壬生	女男	二一	二	一	二
西條	女男	一	一	一	一
三角	女男	一	二四	二	一
三島	女男	一二	一	一	一
久万	女男	二四	二六	三	二
郡中	女男	三	三	一	二
大洲	女男	一	一	一	一
内子	女男	一	一	一	一

第十三章 保健衛生

第一節 上水道

八幡濱	卯之町	野村	宇和島	松丸	御莊	計
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
一一三〇	一一	一一	九五	一一	一一	四四九一
一一〇〇	一一	一一	四四	一一	二二	三三九七
一一	一一	一一	二二	一一	一一	七一八
一一	一一	一一	五四	一一	一一	一五三三

昭和十二年末現在に於ける上水道設置市町村は三市四町十七村にして上水道施設数は二十六を算へ之が現在給水人口總計は七〇、三四九人なり。
縣廳所在地たる松山市に於ては多年來の懸案として上水道の設置計畫中なるも未だ實現を見るに至らず。

上水道布設調

(昭和十二年末現在)

企 業 者	竣 工 年 月	給 水 開 始	給 水 區 域	給 水 人 口				水 源	摘 要
				現 在	極 度 人 口	平 均	最 大		
宇 和 島 市	大正十五年九月	大正十五年八月	宇和島市 一圓	三、八四三	六、〇〇〇	〇・〇八〇 ^{立方米}	〇・二五五	柿原川	擴張 二圓
喜多郡 長濱町	大正十五年二月	大正十四年十月	長濱町 一圓	四、〇三三	五、〇〇〇	〇・〇八四	〇・一〇〇	溪谷	
溫泉郡 三津濱町	昭和七年 三月	昭和七年 三月	三津濱町 一圓	五、一六五	二六、〇〇〇	〇・〇九〇	〇・一四〇	鑿井	
八幡濱市	昭和十一年三月	昭和八年 二月	八幡濱市 一圓	六、一五五	二〇、〇〇〇	〇・〇八五	〇・一二五	〃	
今 治 市	昭和十一年三月	昭和十一年四月	今治市 一圓	一七、四四四	五五、〇〇〇	〇・一〇〇	〇・一五〇	伏流水	
溫 泉 郡 道後湯之町	昭和十年十二月	昭和十一年一月	町内一圓(石手、 祝谷ヲ除ク)	二、一八〇	八、〇〇〇	〇・一〇〇	〇・一五〇	〃	
宇摩郡小富士村	昭和六年 三月	昭和六年 六月	大字小林 一圓	三、四三三	八四〇	〇・〇四四	〇・〇六三	古河谷川	
宇摩郡中次庄村 (一)	昭和二年 三月	昭和二年 四月	大字中之庄一部	七、五五	八、五〇	〇・〇三〇	〇・〇四〇	湧出水	
宇摩郡中次庄村 (二)	昭和五年 三月	昭和五年 三月	大字中之庄一部	三、五五	三、六六	〇・〇三〇	〇・〇四〇	〃	
宇摩郡 土居村	昭和八年 一月	昭和八年 一月	大字土居ノ入野	三、六八	七、五〇	〇・〇七〇	〇・〇八四	鑿井	
新居郡 中萩村 (一)	昭和四年 八月	昭和四年 八月	大字 萩生	二、〇〇	三、〇〇	〇・一三〇	〇・一六八	穿井	
新居郡 中萩村 (二)	昭和七年 五月	昭和七年 六月	大字 萩生東部	五、〇〇	七、五〇	〇・〇六五	〇・〇八四	〃	
新居郡大生院村	昭和五年 十月	昭和五年 十月	大字本村 喜木	一、〇〇	一、〇〇	〇・一〇〇	〇・一二〇	穿井	

新居郡 飯岡村 新居郡角野村 上水道組合	昭和七年 二月 昭和七年 十月	昭和七年 三月 昭和七年 十月	大字八幡原以西 西原ニ至ル 角野村ノ一部 泉川村ノ一部	六〇 一、〇七五	七五 一、五〇〇	〇・〇四〇 〇・〇七〇	〇・〇五〇 〇・八四〇	湧水 地下水
西宇和郡伊方村	昭和四年 十月 昭和九年 三月 昭和十年 三月	昭和四年十一月 昭和九年 四月 昭和十年 五月	伊方村ノ内蘆浦 伊方村、中浦川 永田 伊方村ノ内蘆浦	三三 五五 八〇	五〇〇 六〇〇 一、一〇〇	〇・〇五〇 〇・〇五五 〇・〇七〇	〇・〇九七 〇・〇六五 〇・〇八四	湧水 湧水 湧水
西宇和郡町見村	昭和五年十一月 昭和八年 八月	昭和五年十二月 昭和八年 九月	大字二見字鳥津 字二見 字本浦	二七 三六	四〇〇 四四〇	〇・〇五五 〇・〇五五	〇・〇八四 〇・〇九五	溪水 湧水
西宇和郡三机村	昭和五年十二月 昭和七年 三月 昭和七年 三月 昭和八年 二月 昭和九年 四月 昭和十年 三月	昭和五年十二月 昭和七年 四月 昭和七年 四月 昭和八年 二月 昭和九年 五月 昭和十年 五月	大字塩成字 中綱代 大字塩成字西上 大字 足 成 大字 三 机 大字 志 津 大字 志津下組	一七 一四 三〇 七六 二〇 二五	三〇〇 三三〇 七五〇 一、〇〇〇 三三〇 二二〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇 〇・〇七〇 〇・〇八四 〇・〇八四 〇・〇八四	〇・〇七〇 〇・〇八四 〇・〇八四 〇・〇八四 〇・〇八四 〇・〇八四	河内川 溪流 堀井 溪流 溪流 湧水
西宇和郡双岩村	昭和八年 三月 昭和九年 三月	昭和八年 四月 昭和九年 四月	大字 若 山	一六	二〇〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇	〇・〇八四 〇・〇九五	湧水
西宇和郡宮内村	昭和十一年三月	昭和十一年四月	舟木谷三島	二〇	二〇〇	〇・〇六五	〇・〇八四	溪谷泉

西宇和郡三島村 (二)	昭和八年 十月	昭和八年 十月	大字 下泊	一〇	二五〇	〇・〇七〇	〇・〇七五	湧水並井水
西宇和郡四ツ濱村 北宇和郡遊子村 北宇和郡下灘村	昭和十二年九月	昭和十二年九月	大字川之濱 本部落	五七	一、一〇〇	〇・〇七〇	〇・〇八四	溪流
	昭和十年 十月	昭和十年 十月	水ヶ浦	五三	四〇〇	〇・〇七〇	〇・〇八〇	溪谷
南宇和郡 西外海村	昭和四年十一月	昭和四年十二月	中泊、外泊	一、一五	一、一〇〇	〇・〇四〇	〇・〇五〇	溪水
	昭和六年 三月	昭和六年 五月	内 泊	八五	一、〇〇〇	〇・〇三〇	〇・〇六〇	井
南宇和郡御莊町 松山市	昭和六年 四月	昭和六年 七月	大字平城 字長崎一圓	三三	五〇〇	〇・〇三〇	〇・〇四四	井
	昭和十年 三月	昭和十年 四月	大成川	三八〇	四〇〇	〇・〇三〇	〇・〇九〇	伏流水鑿井

第二節 飲食物其他

一、清涼飲料水製造

昭和十二年末現在の清涼飲料水製造業者数は六六名にして之を品種別に就て見るにブレンソーダ水業者数二名にして一ヶ年間の製造量は七〇六立、ラムネの類業者数三六名、製造量三二二、二〇九立、サイダーの類業者数二三名、製造量

六二五、一九六立、リモナーデ製造業者数三五名製造量一五七、一五三立、果實汁果實蜜及其類似製品業者数一六名製造量六〇、一八五立なり。

尙本縣に於ては清涼飲料水輸入業者なし。

清涼飲料水製造量

和昭十二年

署別	業者数	製造業者数	製造量	業者数	製造量	業者数	製造量	業者数	製造量
松山署	一六		八、五〇六立	六	九三、一〇四立	七	三〇、九三立	三	八、六四三立
三津署	二		七、五五〇			一	一、一〇〇		
今治署	一三		一〇、七一一	四	四五、二四四	八	三三、三七	三	二、八〇〇
壬生川署	四		四、三〇五	三	三二、八五〇			一	一九、八四七
西條署	五		五、五〇〇	二	七三、〇〇〇	四	一八、四五六	一	八〇〇
角野署	三		一七、七三六	一	三、五五〇	二	四、三三二	一	一、〇〇〇
三島署	三		二、七〇六	一	九四七	一	六、六六六		
久万署	一								
郡中署	二								
大洲署	五		九、九八八	一	一一、〇一一	二	一五、〇七〇	二	一、六六二
内子署	一		二、八〇八			四	五、〇七〇		

八幡濱署	卯之町署	野村署	宇和島署	松丸署	御莊署	計	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年
一六	一	五	一	一	一	六	六	六	六	六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
一六、四三三	七、八〇〇	八、四六六	七、四〇六	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九
二	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
三、七二七	一、〇〇〇	二、八七二	二、八七二	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七
二	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
一三、〇六四	一、〇〇〇	二、八七二	二、八七二	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七	一、七二七
二	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
九、三〇〇	四〇〇	四、八八四	四、八八四	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六

二、飲食物其ノ他ノ物品検査

昭和十二年中に於ける飲食物其の他の物品検査状況は検査件数七、五五三件にして同上有害件数は一五二件なり、之を取締規則別に就て見るに牛乳営業取締規則に抵触するもの六二件、飲食用器具取締規則三件、人工甘味質取締規則四六件、飲食物防腐劑取締規則三九件、メチールアルコール取締規則一件、其の他一件にして營業禁止又は同停止處分を受けたるものなし。

飲食物其ノ他ノ物品検査成績

昭和十二年

種別	検査件数 (處分別)	同上有 害件数	取締規則別
牛乳 全乳 脱脂乳	一、一五〇	〇	三
煉乳 同上 無糖ノモノ	一、四六六	〇	〇
脱脂煉乳	九	〇	〇
粉乳	六三	〇	〇
同上 無糖ノモノ	一	〇	〇
人造氷	八	〇	〇
ラムネ	三三	〇	〇
サイダー	三三	〇	〇
リモナー	二〇	〇	〇
果實汁、果實蜜及其類似製品	三	〇	〇
牛乳又は乳製品ヲ原料トスル酸性飲料	一	〇	〇
陶磁器類	二	〇	〇
菓子類	六九	〇	〇
其ノ他	〇	〇	〇

— 160 —

昭和十二年末現在

五 五 六 二 五 五 六 四 五 一 三 九 六 四 九

七 八 八 八 八 四 三
四 一 八 四 二

永世

最近五ヶ年間比較搾乳量並にバター製造量

年次	搾乳量	バター製造量
昭和八年	五六八、二二九 ^立	五八一 ^屈
九年	七一八、五三八	
十年	八三六、三一〇	七二一
十一年	九六〇、一〇九	三八四
十二年	九一六、七六一	四七五

三、山羊乳

昭和八年内務省令改正に伴ひ本縣に於ては同九年五月施行細則を制定するに當り山羊乳に對しても牛乳同様取締を施行せり。左に最近五ヶ年間に於ける搾乳場、頭數、搾乳量を表示す。

本縣は地理的に島嶼部、半島部、山間部等に富み牛乳需給不便なる關係上山羊乳營業者は比較的多數なり。

最近五ヶ年間比較搾乳場、頭數並に搾乳量

年次	搾乳場	乳用山羊頭數	搾乳量
昭和八年	三六	五〇六	四七、六〇一 ^立
九年	二六	四三三	五五、一八四

年次	搾乳場	乳用山羊頭數	搾乳量
十年	二六	四二四	五六、四七〇
十一年	二六	四〇五	六〇、六三三
十二年	二六	三二九	五八、六二七

四、牛乳細菌検査

本検査は昭和八年内務省令改正に依り翌九年より之を實施し専ら各警察署管區を單位として現地に出張し市乳配達途上より收去して臨地検査を行ひ、尙ほ定期並に隨時に検査を施行せしが殊に夏季炎暑の候牛乳の最も變敗し易き季節に於て頻繁に之を施行せり。但し九、十、十一年は専ら業者に對し細菌に對する豫備知識を與へ牛乳取扱上自覺せしむるを以て主眼とせるものにして、左に昭和十二年夏季(自六月至九月)に於ける検査成績を表示す。

牛乳細菌検査成績 (其ノ一)

市部

處理前ノモノ 處理後貯藏中ノモノ 販賣店頭ノモノ 配達途上ノモノ 計	査被者數	者違數	件檢數	件違數	不合條件數中ノ内譯		
					細菌規格ニ適セザルモノ	品質不良ノモノ	他物ヲ混入シタルモノ 其ノ他
	七	二	二八	三	一	二	
	四	一	一六	二	一	一	
	五	一	一一	一	一	一	
	一四	三	二二三	一五	二	〇	
	三〇	七	二六八	二二	四	一四	

町 村 部

處理前ノモノ 處理後貯藏中ノモノ 販賣店頭ノモノ 配達途上ノモノ 計	者被 檢査 數	件違 數反	件檢 數査	件違 數反	不 合 格 件 數 中 ノ 内 譯		其 他
					細菌規格 ニ適合セザ ルモノ	品質不良 ノモノ	他物ヲ混 入シタル モノ
五	一	一	一七	一	三	一	一
一一	三	一	五二	五	一	一	一
三	一	一	一七	一	一	一	一
四四	二	二	二五	二	九	一五	一
六三	二五	二	三四一	三三	一二	一七	二
計							

牛乳細菌検査成績 (其ノ二)

市 部

處理前ノモノ 處理後貯藏中ノモノ 販賣店頭ノモノ 配達途上ノモノ 計	500以下	501— 1,000	1,001— 5,000	5,001— 10,000	10,001— 100,000	100,001 以上	計
二	二	二	九	二	一	一	五
四	二	一	三	七	二	二	一八
六	二	一四	三	一八	三	四	四七
計							

町 村 部

處理前ノモノ 處理後貯藏中ノモノ 販賣店頭ノモノ 配達途上ノモノ 計	500以下	501— 1,000	1,001— 5,000	5,001— 10,000	10,001— 100,000	100,001 以上	計
二	一	二八	二	二	七	一二	六一
一	一	八	一	二	二	九	二二
二	一	一六	九	五	三	二	三六
計							

以上の通り細菌數検査を施行するに、〇〇一五、〇〇〇乃至五、〇〇一、〇〇〇個を有するもの最も多く、不合格率は市部四（八・五％）町村部二二（一九・六％）を算出する状態にして特に町村部に於て不合格件數の多きは未だ其の知識に乏しき所以のものと認められ今後取締上尤も注意を要すべき點也。

第四節 温 泉

一、温 泉

縣内に於ける温泉は道後温泉一ヶ所のみにして四國唯一の温泉なり。温泉郡道後湯之町に在り源泉は第一、第二の二ヶ所より湧出し、靈乃湯、神之湯、鸞之湯、西湯の各浴槽に分湯す。

本泉は溫度攝氏四五・八度を有しアルカリ性單純泉に屬し、殆ど無色澄明なり。著名の温泉として其の名、古より人口に膾炙せられ浴客頗る多し。

二、鑛泉

鑛泉場の著名なるものなきも、一般の浴用に供せる主なるものを挙げれば左の如し。

名 稱	所 在 地	泉 質
湯ノ元温泉	温泉郡湯山村	弱アルカリ泉(硫化水素含有)
友國温泉	全 郡堀江村	全
鈍川温泉	越智郡鈍川村	全
小簀温泉	喜多郡宇和川村	炭酸含有アルカリ泉
湯之谷温泉	新居郡神戸村	全

第四節 便 所 改 良

一、浄化装置を有する便所設置状況

昭和十二年末現在に於ける浄化装置を有する便所数は五〇ヶ所にして松山市の二三ヶ所最も多く、新居濱市の一一ヶ所之に次ぐ。

浄化装置を有する便所数

昭和十二年末現在

市町村名	便 所 数
松山市	二三

今 治 市	四
八 幡 濱 市	二
宇 和 島 市	一
新 居 濱 市	一
道 後 湯 之 町	五
北 條 町	一
松 前 町	三
計	五〇

二、改 良 便 所

消化器傳染病並に人體寄生蟲病豫防上の見地より内務省に於ては昭和二年以來改良便所の設置を奨励せられたるに依り、本縣に於ても之が普及に努めつゝあるも其の設置數未だ僅少なるは遺憾とす。昭和十三年六月現在の設置數左の如し。

改良便所設置數

昭和十三年六月調

市 町 村	公費ニ依ルモノ	私費ニ依ルモノ	計
市 部	五	六	一一
町 部	二	一	二
村 部	一	四八	四九
計	八	五四	六二

第十四章 獸畜衛生

第一節 屠畜

一、屠場

昭和十二年末現在の屠場数は十箇所にして全部公設なり。

屠場数

昭和十二年末現在

屠場名	經營種別	所在地	經營者	設立許可年月日	設立費概算
松山屠場	市營	松山市持田町	松山市長	明治四十一年十月十七日	四、五四九圓
今治屠場	市營	今治市大字淺川	今治市長	明治四十二年七月七日	四、五五〇圓
宇和島屠場	宇和島市、來村屠場組合	宇和島市新田字松崎	(管理) 宇和島市長	昭和二年十一月四日	三五、〇〇〇圓
八幡濱屠場	市營	八幡濱市宇吉井	八幡濱市長	明治四十二年十月廿五日	三、七八三圓
新居濱屠場	市營	新居濱市土ヶ谷	新居濱市長	昭和八年三月三十日	一三、八六〇圓
三芳屠場	村營	周桑郡三芳村字丈尺	三芳村長	大正十四年十月十五日	一〇、九八三圓
川之江屠場	町營	宇摩郡川之江町大字大江	川之江町長	明治四十三年五月十一日	二、八〇二圓
大洲屠場	町營	喜多郡大洲町大字若宮	大洲町長	昭和十一年十一月十三日	一〇、〇〇〇圓
野村屠場	町營	東宇和郡野村町大字阿下	野村町長	昭和二年十一月二十一日	一二、〇〇〇圓
御莊屠場	城邊町、東外海村屠場組合	南宇和郡城邊町	(管理) 城邊町長	大正十四年十月十五日	一二、〇〇〇圓

二、屠畜頭數

昭和八年以來五ヶ年間の屠畜頭數は左表の如くにして年々増加の趨勢にあれども、昭和九年及同十年に於ては旱害並に風水害の爲特に農村の疲弊甚しく一時屠畜數の減少を見たるも其後漸次増加の傾向を示しつつあり。

尙續(生後十八ヶ月未満)は近年頃に屠殺數増加の傾向にあるは本縣畜産の爲に遺憾とする處なり。

最近五ヶ年間屠畜頭數

年次	屠場内屠殺				切迫屠殺			
	牛	猪	馬	計	牛	猪	馬	計
昭和八年	四、三三三	一、一九三	四、三三	一、四六	二二	五	一	三三
九年	四、〇六六	一、三〇〇	四、〇九	二、九	二六	七	一	三六
十年	三、六三三	一、一六六	四、〇三	二、二七	二四	一〇	一	三六
十一年	四、〇七七	一、四七	七、一	一、四四	三三	四	二	四〇
十二年	四、五〇〇	一、八六	七、五	二、六	二六	九	一	四〇
合計	二〇、五〇二	七、三三四	二、七三	六、三三	二二〇	三五	六	一八五

三、屠畜頭數及肉量

昭和十二年中の屠場別に依る屠畜頭數及肉量は左表の通りにして屠場内屠殺の平均肉量を算出すれば牛(一四二斤)猪(一七七斤)豚(四八斤)馬(一一七斤)なり。

屠場別屠畜頭數及肉量

昭和十二年

本縣に於ける最近六ヶ年間の畜牛結核病検査は左表の如くにして病牛の大部分は溫泉郡東中島、西中島兩村に於て他府縣より移入したる牝にして、縣内生産乳牛及牛乳營業者の飼養せる乳牛の病牛發生頭數は僅少なり。

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
六九	六五	七〇	七六	七六	七六
五三	五四	四六	四八	四四	五二
一、二六	一、一九	一、二五	一、二六	一、二二	一、三〇
六	四	二	四	五	七
一七	一五	一三	一五	一八	二〇
—	—	—	—	—	—
二三	二九	二四	九	二三	二七
一、八一	二、四〇	一、九一	〇、七四	一、〇九	二、〇三

本縣に於ては近年本病の發生を有せざるも最近五ヶ年間に於ける非狂犬に咬傷せられたる者に對する豫防注射施行人員並に野犬藥殺成績を擧ぐれば左表の如し。

恐水病豫防注射施行成績

年次	恐水病患者發生數	狂犬ニ咬傷セラレタル人員	豫効注射ヲ受ケタル人員	其ノ他
昭和八年	1	1	1	2
" 九年	1	1	1	1
" 十年	1	1	1	6
" 十一年	1	1	1	2
" 十二年	1	1	1	5

野犬藥殺成績

年次	野犬見込頭數	毒殺頭數
昭和八年	二、九九五	一、三二一
" 九年	二、九六七	一、一八六
" 十年	二、七〇一	一、六五四
" 十一年	六、〇一四	二、五四一
" 十二年	七、三五三	二、六二一

第十五章 醫療機關並療屬

第一節 醫師 齒科醫師

一、醫師

昭和十二年末現在の醫師總數は七百十二人（内男六八六、女二六六）にして前年に比し二十六人を増したり。資格收得別に依る醫師數は大學卒業男百九十五人、官公私立醫學專門學校卒業男三百三十七人、女二十一人、外國學校卒業男一人、試験及第男百四十二人女五人、奉職履歷男一人、從來開業男十人なり。

同年末現在の診療に従事する醫師數は六百八十八人にして之を市部、町部、村部の區別より見るに、市部二百六十七人、町部百六十三人、村部二百五十八人にして一師一人に對する人口比例は一、七〇七に該る。各郡市中醫師一人に對する人口最も少數なるは宇和島市の七八三にして、松山市の八八八之に次ぐ、之に反し人口比例最も多きは上浮穴郡の二、八九三にして越智郡の二、七五六之に次ぎ、農山村に於ける醫師公布狀態は依然として不良の實情に在り。

醫師 現在 數 昭和十二年末現在

郡市別				醫師總數										診療ニ従事スル醫師數		醫師一人ニ對スル人口比例		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	市部	町部	村部	計
溫泉郡	一五	一				二〇	四	一五	二			二五	六					二・六六
越智郡	九	一				七	一	五				四	一					二・五六
周桑郡	三	一				九	一	六				三	一					二・六七
新居郡	六	一				六	一	五				七	三					二・六三

昭和十二年末現在に於ける齒科醫師總數は二百五十二人（内男二三六人、女一六人）にして前年に比し十六人を増したり、之を資格收得の區別により見るに齒科醫學專門學校卒業百二十八人、外國學校卒業一人、試験及第百二十三人なり。

同年末現在の診療に従事する齒科醫師數は二百五十一人にして齒科醫師一人に對する人口比例は四・六七九に該り、前年に比し二七八を減ぜり。齒科醫師最も多く分布せるは松山市にして齒科醫師一人に對する人口比例は一・八五七にして八幡濱市の二・三九二之に次ぐ、齒科醫師分布最も少きは上浮穴、溫泉、伊豫等の各郡なり。

[illegible]

西 宇 和 郡	東 宇 和 郡	北 宇 和 郡	南 宇 和 郡	松 山 市	今 治 市	宇 和 島 市	八 幡 濱 市	新 居 濱 市	計	昭 和 十 一 年	〃 十 年	〃 九 年	〃 八 年
三	三	八	四	一	七	一〇	六	七	二六	一〇〇	九七	八七	七
二	一	一	二	一	一	一	二	一	三	九	一〇	九	九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	五	四	三	三	九	九	五	三	二九	二三	一九	一六	二三
一	一	一	一	二	一	一	一	一	四	四	四	三	三
七	八	一三	七	四二	一六	一九	一一	一〇	三六	三三	二七	二〇	二〇
二	一	二	二	三	一	一	二	一	一六	二三	一四	三	三
九	八	一三	九	四四	一七	一九	一三	一一	五三	三三	三三	二六	二四
一	一	一	一	四四	一七	一九	一三	一一	一〇	九三	九三	七四	七三
五	七	七	六	一	一	一	一	一	八	八七	八四	九五	八七
四	一	六	三	一	一	一	一	一	五	五	五	五	五
九	八	一三	九	四四	一七	一九	一三	一一	五二	三三	三九	二〇	二三
七・七八	七・四〇	七・二九	四・二一	一・八五七	三・三四	二・七二	二・三三	一	四・六七九	四・九五七	五・〇八七	五・四九	五・四九

第二節 產婆及看護婦

昭和十二年末現在に於ける産婆數は指定學校若は講習所卒業六十二人、試験及第七百六十三人、從來開業十四人、限地開業九人、總數八百四十八人にして前年の八百二十四人に比し二十四人を増したり。

同年末現在の無産婆村は五十七村にして前年に比し五ヶ村を増したり、之等の無産婆村中には交通機關に乏しき僻陋村多數ありて隣接地に在る産婆を利用し能はざる實情なり。

同年末現在の看護婦は一千五百三十七人にして前年に比し九十七人を増したり。

產婆及看護婦現在數

昭和十二年末現在

[illegible]

南 宇 和 郡	松 山 市	今 治 市	宇 和 島 市	八 幡 濱 市	新 居 濱 市	計	昭 和 十 一 年	"	"	"	八 年
一	六	三	二	三	七	六	五	五	四	四	四
二〇	一〇五	五三	五五	一九	二四	七三	七三	七三	七〇六	六九六	六九六
一	三	一	二	一	一	一四	一四	一五	一五	一三	一三
一	一	一	一	一	一	九	一〇	一〇	一五	七	七
三	二三	五	五	三	三	八六	八四	七九	七四	七〇	七〇
一	二三	五	五	三	三	二八	二四	二四	二〇九	二二九	二二九
八	一	一	一	一	一	一三	一五	一七	一八	一三	一三
一四	一	一	一	一	一	四〇	四七	三九	三九	三九	三九
二〇	四三	一六	一九	七二	八〇	一、五三	一、三六	一、三七	一、三九	一、一六	一、一六
一	六	五	一	一	一	一四	一四	一四	一四	一三	一三
二〇	四八	一七	一九	七二	八〇	一、五七	一、四〇	一、三一	一、二六	一、一七	一、一七

無
産
婆
村
調

昭和十二年末現在

郡別	無産婆村名	村數
溫泉郡	生石村、五明村、湯山村、西中島村	四
越智郡	鈍川村、日高村、魚島村、龍岡村、鴨部村	五
周桑郡	千足山村、中川村、三芳村	三
新居郡	大島村、加茂村、大生院村	三

宇摩郡	上浮穴郡	伊豫郡	喜多郡	西宇和郡	東宇和郡	北宇和郡	南宇和郡	合計	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年
小富士村、二名村、新立村、上山村、金砂村、富郷村、金田村	明神村、川瀬村、仕七川村、面河村、弘形村、父二峯村、田渡村、小田町村、石山村、參川村、浮穴村	廣田村、佐禮谷村	南久米村、三善村、上須臾村、大和村、櫛生村、喜多灘村、御殿村、滿穗村、立川村、宇和川村、大谷村、柳澤村、五城村	磯津村	高川村、遊子川村、惣川村	北灘村、來村、日振島村、戸島村、御旗村						
七	一一	二	一三	一	三	五			五二	五三	五三	五五

第三節 鍼術、灸術、按摩術並に柔道整復術業者

昭和十二年末現在の鍼術、灸術、按摩術、柔道整復術の各營業者總數は一千六百八十七人にして前年に比し三十二人を増したり。

之を營業者別につき見るに按摩術（マツサージ術を含む）業者の九百七十二人最も多く、灸術業者百六十六人之に次ぎ最も